

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	愛媛県今治市南大門町3丁目5-33
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 8月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者の心身状態の観察をし、個々に合ったサービスを提供するため、今、何がしたいか、何ができるかの把握に努め、張り合いや楽しみ、喜びのある日々が送れるよう支援しています。又、介護計画作成時には、本人・家族・担当者など参加の下、3か月に1度のカンファレンス、及び随時の検討会を実施し、より良いケアができるよう努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念を実践する大切さを念頭に置き、家族や友人、地域住民等がいつでも行き来できる場所になるように努めており、地域に開かれた事業所を目指して積極的に地域との交流に取り組んでいる。利用者により良いサービスが提供できるように、内部研修の実施や外部研修へ法人が費用負担し参加しやすいような仕組みがあり、認知症ケアや介護技術の質の向上に努めている。利用者の言葉を介護記録に残したり、丁寧な介護計画の作成やモニタリングを行ったりして、利用者の思い描く生活が送れるよう一人ひとりの支援に心がけている。食事や外出、作業などを利用者が楽しめるよう支援しており、何ごと実践と評価を繰り返しながら積み上げていくことを大事にしている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 社会福祉法人杉の子会グループホーム廣寿苑

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)

氏名 妹尾 美地子

評価完了日 平成 25 年 7 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前の暮らしが遅れるよう支援してまいります」との理念と「楽しい歌声が響き皆の笑顔がある。」の活動方針のもと、職員間のコミュニケーションを図り、利用者が笑顔で生活できるよう気持ちを共有している。</p> <p>(外部評価) 理念に沿って、家族や友人、地域住民、実習生等がいつでも事業所を訪れることができる、地域に開かれた事業所を目指している。ユニット毎に作成している活動方針を、職員は共有して日頃から実践しており、事業所が利用者にとって自宅と感じられるような支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 買い物や散歩は地域のスーパーや衣料店、お寺や神社等の利用をさせて頂き、地域行事への参加も行い地域住民の方との交流を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者は月1回開催される小学校主催の交流会に、地域の老人会や婦人会と一緒に参加しており、フォークダンスやレクリエーションなどを通して地域住民と交流をしている。校区の盆踊りに参加したり、婦人会員が事業所で踊りを披露してくれたりするなど、相互の交流関係が築かれている。管理者は事業所から地域に出向いていくことを心がけ実践している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会の開催のなかで利用者の活動報告等により、認知症に対する理解を深め実践的な介護技術や支援方法を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス内容の報告による評価結果を踏まえ、多方面からの意見交換の場とし、よりよいサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、地域住民、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員等の参加を得て開催している。会議では事業所便りを見てもらいながら活動報告を行い、写真や利用者の言葉から日々の生活の様子が分かるように工夫している。認知症や感染症対策、健康管理方法などの勉強会と一緒に開催する工夫もしており、事業所の取組みを知ってもらうとともに地域に情報提供をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援室の職員に参加・協力をして頂き、情報を集め役立てている。 また報告・連絡・相談を密にし関係を深めている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換、新しい情報を得ることができるよう関係を築いている。市内の地域密着型サービス事業所間の勉強会の開催を考えており、行政の協力が得られるよう検討しており、連携の大切さを認識している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は開錠し、車椅子・ベット・居室・衣服等による拘束のないよう自由な環境の中で過ごして頂く。 又、定期的に勉強会を実施し、基本的な介護の姿勢を大切に、拘束しないケアを実践している。	
			(外部評価) 法人内に身体拘束防止委員会や虐待廃止委員会があり、事業所内で勉強会を開き、支援方法について職員間で話し合い、身体拘束をしないケアを共有して実践している。職員は、利用者の言動の背景を捉えられるよう気づきの意識を持って支援しており、話をじっくり聞くことや家族の協力を得て、その人らしい生活が送れるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は「絶対にあってはいけない人権侵害」を念頭に勉強会を実施し、常に利用者の状態観察を行うと共に、職員においても、心身状態の把握に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護についての研修参加を行い、勉強会を実施し職員皆が理解し活用できるよう努めているが、現在は利用している方がいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は利用者と家族、事業所で十分な話し合いを持ち、要望を伺いながら理解・納得・同意につなげている。退去後もその人らしく生活できるよう、次の生活場所への支援も行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会やカンファレンス、評価等の意見を受け止め質の向上に努めている。 日々家族との付き合いを大切にし、意見を求めやすい関係を築く努力をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に利用者と家族が参加しており、意見や要望を聞くように努めている。また、家族会の開催時や事業所の訪問時を利用して、家族から意見を聞くようにしており、出された意見をもとにして、サービスの質の向上に繋がるよう努めている。家族が事業所の行事に参加したり家族と一緒に外出することを大切にしており、家族も事業所が自宅のように感じられるよう職員は取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 合同ミーティングの場を持ち職務への要望・意見を交換しやすい雰囲気をつくり、利用者へのよりよいサービス提供を考えている。	
			(外部評価) 日頃から職員同士の意見交換は活発に行われており、ユニット主任を通じて管理者や法人職員に意見を伝えることができる。法人の施設長は、運営推進会議に毎回参加し、事業所の様子や地域との繋がりを理解しており、環境整備や利用者の気持ちに立ち、サービス提供ができるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々のおかれている状況を把握し、環境にあったシフト作成を心がけ、仕事に集中できる職場作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会への参加を推奨し、勉強会での報告により全ての職員が共有し、仕事をしながらのレベルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修への参加を心がけ、また研修会では他施設職員との意見・情報交換に努め、交流を持つことによりネットワーク作りをしている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 普段のかかわりの中で会話や様子に気をつけ、利用者の思いを汲み、本人の意思が反映でき、安心して生活できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の話し合いにより家族の要望を把握し、事業所としてどのような対応ができるかを考え、最善のサービスを提供できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時の実情を把握し、今最も必要としている支援を見極め、事業所として可能な限りの対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者から教わることも多くあり、家族同様の思いを持ち、同じ時間を一緒に過ごし、喜怒哀楽を共有することで、互いの関係性を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の負担を考慮した上での、無理のない行事参加・病院受診・面会をお願いしている。また普段からの思いや相談に耳を傾け信頼関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者や家族からの事前の聞き取りなどにより、これまでの生活歴を踏まえ、馴染みの関係の継続に努め、利用者の希望により積極的な外出を支援している。	
			(外部評価) ドライブ時に利用者の実家や行きつけのスーパーに出かけるなど、馴染みの場所に行けるよう支援している。また、家族と一緒にカラオケに行ったり、俳句の仲間の訪問があるなど、これまでに大切にしてきた関係が継続できるように努めている。事業所だけでは利用者の馴染みの関係の継続には限りがあり、管理者は地域住民など様々な所に声かけをして、地域全体で支援できるような体制づくりができないか検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リハビリ体操・行事・レクリエーション・食事等、利用者同士が同じ時を送る中での関わりを大切にした支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまでの関係性を尊重し、退所決定時には適切なアドバイスをし、本人・家族の経過フォローをしている。また普段より退所後も相談に来ていただけるような関係を築くよう取り組んでいる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より利用者への声掛けや会話によるコミュニケーションをはかり、カンファレンスではもちろん、職員との会話や利用者間でのやりとりにも気を配り、表情や様子も見逃さず、希望・意向を汲むように努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の思いや発言した言葉をそのまま介護記録に書くように心がけており、記録を読み直すことで利用者一人ひとりを深く把握するように努めている。調理やおぼん拭き、洗濯物を畳んだり、畑での野菜作りを手伝うなど、利用者が役割とやりがいを持って生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前に生活環境シートやこれまでのサービス利用状況、面接等で情報収集し、生活歴を把握する事に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康観察や記録を徹底し、個々の日常のペースを把握し、普段と違う言動や様子に気づき、異常の早期発見に努め、申し送りにより情報を共有している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 普段からの観察・記録を活用し、全職員よりの課題とケアの提示を求め、プランについての毎月の評価と、3ヶ月に1度のカンファレンスをもとに介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの担当職員が、日々の観察や細やかな介護記録を記入するなど、情報を多く持てるよう努めている。利用者の情報や家族からの要望を取り入れカンファレンスを行い、利用者にとってより良い生活が送れるよう介護計画に反映している。計画の評価は1か月ごとに行い、評価を家族に確認してもらいコメントをもらっている。モニタリングは、3か月に1回の総合評価として行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日常の会話や様子、ケアの実践状況や結果、職員の日々の気づきを記録に残し、情報共有する事で介護計画の見直しをし、実践へ反映させている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) その時々本人・家族の状況により病院受診・通院・買い物等の柔軟な支援とサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 今治小学校のたんぼぼタイムや祭りなどへの参加をし、地域と密着した行事・サービスを取り入れ交流が図れるよう支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者・家族納得のかかりつけ医での受診の継続がで き、介護要約の活用により医療現場への正しい情報提 供をすることで適切な医療を受けられる支援をしてい る。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。事業所には定期的に協力医と歯科医の往 診があり、健康管理している。病院受診時には、担当 職員が利用者の状況を介護記録要約書に記入して医師 に渡し、治療や薬に変更があれば医師からの返信がも らえるように依頼している。受診状況は医師、家族、 事業所が情報を共有できるよう情報伝達の仕組みを しっかりと確立している。特に薬が変更された場合 は、その後の利用者の状態把握に努め、連携しながら 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 普段からの関わりや観察・バイタル測定等により変調 の早期発見に心がけ看護師への報告・相談・指示を仰 ぎ適切な介護・看護・受診につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 普段の受診時より要約書の活用などで医療現場との関 係作りを行い、入院時には速やかな介護サマリーの提 供により情報共有に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日頃より家族との関わりを大切に、本人や家族の希 望を出来るだけ汲み、事業所がとれる最良の方法で支 援している。	
			(外部評価) 看取り、重度化に関する指針を作成しており、入居時 に事業所としてできないことを利用者や家 族に説明している。家族に利用者の状態の変化など報 告を継続して行い、理解を得ながら現状に適した医療 や施設を家族と一緒に探す支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 月1回の勉強会の中で、急変や事故発生時に備えての初動体制を反復し実践力をつけている。また、事故発生時にはヒヤリハット及び事故報告書の活用により、再発防止に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者の歩行レベル、移動手段が一目でわかるよう業務日誌に記載し共有、消化器の位置や避難経路を全職員が日々確認している。また、法人での災害訓練時には地域の方にも呼びかけ参加して頂いている。  (外部評価) 避難訓練は法人全体で地域住民の協力を得て実施している。訓練後には参加者で課題などを話し合い、非常時に活かせるよう取り組んでいる。建物は耐震化されており、大規模災害時には地域の避難場所として利用してもらえるように運営推進会議を通して地域に案内している。また、1週間分の備蓄品を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄・入浴時にはプライバシーを損なわないよう配慮している。また、日頃より利用者は人生の先輩と尊重する気持ちをモットーに、全職員言葉づかいに気をつけ、その人が理解でき安心できる声掛けを大切にしている。  (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬って接することを心がけており、声かけや関わりに気をつけて支援している。コミュニケーション技術や接遇の内部研修を行い、職員の意識や技術の向上に努めるとともに、法人が費用負担し外部研修に参加しやすいようにしており、職員は積極的に研修に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面を出来るだけ作り、本人の思いや希望を引き出し、意思を尊重するよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活ペースを守り、各利用者なりの生活の中での楽しみを把握できるよう努め、出来る限り希望に沿えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日の整容を基本とし、洋服や持ち物等から各利用者の好みを把握し、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士の季節感を大切に献立のもと、利用者と一緒に食事作りや片付けをしている。また、月2回の自由食では利用者の希望を取り入れ楽しい食事出来るよう支援している。	
			(外部評価) 栄養士が献立表を作り、法人の厨房から食材が分配され、利用者の好みや気候に合わせてユニット毎に工夫して調理している。利用者は職員と食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。調査員訪問時には、スイカを切ったりちらしずしを作ったりする利用者の姿が見られ、食事を楽しみにしながら手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者の食事量・好みを配慮した上で、食事摂取・水分チェック表を活用し、過不足のないよう支援している。またその日の健康状態により食事形態の変更を行い、美味しく摂食できるよう実践している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 各利用者にあった毎食後の口腔ケアを実施し口腔ケア用品の清潔にも心がけている。また、歯科往診をお願いし、定期的な受診も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各利用者のレベルに合わせ、日中は出来る限りトイレにて排泄が出来るよう日々検討し、実践している。また、清潔保持の為温かいタオルでの清拭・洗浄を行い、利用者によっては同性介護を実施している。	
			(外部評価) 排泄チェックを行い、利用者がトイレで排泄できるよう努めている。排泄後は微温湯や温かいタオルを使って、清拭を丁寧に行うよう取り組んでおり、皮膚の清潔保持と気持ちの良い排泄を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用して便秘の把握をし、看護師による聴診・体操・マッサージ・水分補充・乳製品摂取等で対応し、結果がでなければ服薬にて調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回を基本としているが、毎日入浴できる環境を整えている。また、入浴後には足指間の乾燥や皮膚の保湿にも気を配り、拒否などのある場合には、タイミングを計ったり清拭や足浴にて対応している。	
			(外部評価) 利用者は基本的に2日に1回利用者は入浴することができ、希望に応じて毎日入浴することもできる工夫をしている。管理者は、認知症ケアとして睡眠の大切さを認識しており、夜間に足浴を行うなど、安眠、良眠できるよう支援している。浴室壁面には、飾りシールを貼り、楽しく会話の弾む空間となるように工夫している。入浴後の皮膚の乾燥を防ぐためにボディローションを塗っており、利用者一人ひとりが選んで買ったものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者に応じた居室配置に努め、日中には適度の活動を促す事により安眠につなげている。また、不眠時には温かい飲み物等の提供にて、できるだけ自然に安らいだ眠りが得られるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者の服薬ノートを作成し、現在の服薬状況を全ての職員が共有出来るような体制をとっている。また勉強会では服薬についての知識を広げている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) リハビリ体操・レクリエーションは利用者の興味のあるもの、元気が出るものを会話の中から見出し、時には両ユニット合同での楽しみを作り、笑いも倍増し交流が図れている。また軽作業では自分が役に立っているという、生きがいに繋がるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事の年間計画には外出を積極的に取り入れている。また、日ごろより日常会話に出てくる馴染みの場所や、生活していた地域への散歩やドライブ・買い物・外食に行き喜びにつなげている。	
			(外部評価) 季節に応じて芋炊きを食べに行ったり、バラ公園に行ったりするなど、外出することで季節が感じられるよう支援している。職員は事前に外出先が車いすでの利用に支障がないか確認するなど、外出支援に力を入れており、利用者の希望に沿えるよう取り組んでいる。外出時には利用者の写真を撮り、写真を見ることを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは小遣い帳にて管理し、希望時に職員と一緒に買い物や外食を楽しみ、安心できる支援に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望や家族からの電話のやりとりがいつでも出来る体制をとっている。また正月前には年賀状を作成したりして外部との連絡の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 庭での散歩・日光浴・外気浴を促し季節の花や野菜の収穫を楽しむことが出来る。壁面飾りにも季節感を取り入れ、ユニット内は適度な広さ・光・温度を保持し、席の配置にも配慮する事で、居心地の良い環境を整えている。</p> <p>(外部評価) 室内の花や飾りつけにはこだわりがあり、季節感を感じることができるような空間となっている。食堂と居間には外からの明るい光が差し込み、フロアには畳を敷いたスペースがあり、利用者は思い思いの場所に自由に座り込んだり横になったりすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルを囲み談話出来るスペースや、単独で座って居られるスペースを確保し、利用者のその時の状況により適したスペースへの促し・誘導に努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所前より使い慣れたものを使用していただき、家族や昔の写真・メッセージカード等を飾り、自分の空間である意識が持てるよう工夫しながら、本人のこだわりを大切にしている。</p> <p>(外部評価) 居室には利用者の使い慣れた物や大切な物を自由に持ち込むことができ、落ち着いた生活を送ることができる。身体状況に合わせてベッドや布団も持参しており、介護用ベッドを使用している利用者もいる。日中、居間で過ごす利用者の居室は窓を開けて風を通すようにし、居室で休む時にはエアコンをかけて温度調節をして、過ごしやすいよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各利用者の「出来ること」「わかること」の把握をし、それらを安全に行えるよう動線確保を行い、状態確保をしながら都度見直し、安心して生活できる環境作りに努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	愛媛県今治市南大門町3丁目5-33
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 8月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を共にする中で、利用者さんの真のニーズを理解し、個々の希望の実現化への実践に向かって全職員の気付きを記録として残し、ケアプランへの導入・実践できるよう努力しています。又、一番の楽しみともいえる食べる事の喜び(日々のメニューの変更も可能であり、月に2回の行事食にも好物を取り入れ楽しみある食事提供)、気持ちの良い排泄ケアを大切に、常に新しい知識や介護技術習得の為、積極的に研修へ参加、利用者さんが安全で安心できるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念を実践する大切さを念頭に置き、家族や友人、地域住民等がいつでも行き来できる場所になるように努めており、地域に開かれた事業所を目指して積極的に地域との交流に取り組んでいる。利用者により良いサービスが提供できるように、内部研修の実施や外部研修へ法人が費用負担し参加しやすいような仕組みがあり、認知症ケアや介護技術の質の向上に努めている。利用者の言葉を介護記録に残したり、丁寧な介護計画の作成やモニタリングを行ったりして、利用者の思い描く生活が送れるよう一人ひとりの支援に心がけている。食事や外出、作業などを利用者が楽しめるよう支援しており、何ごと実践と評価を繰り返しながら積み上げていくことを大事にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	社会福祉法人杉の子会グループホーム廣寿苑
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	妹尾 美地子
評価完了日	平成 25 年 7 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員が考えた理念「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前暮らしが送れるよう支援してまいります」と、活動方針「笑い声が聞こえ美味しい食事の匂いがする」を基に、常に利用者が必要とされているサービス提供ができ、満足に繋がるよう日々話し合い実践してる。</p> <p>(外部評価) 理念に沿って、家族や友人、地域住民、実習生等がいつでも事業所を訪れることができる、地域に開かれた事業所を目指している。ユニット毎に作成している活動方針を、職員は共有して日頃から実践しており、事業所が利用者にとって自宅と感じられるような支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や、小学校の「たんぽぽタイム」、近所のカラオケ喫茶などに出席する機会も増え、近隣者からもよく声をかけて頂く。又、自施設の夏祭りでは、婦人会、推進会メンバー、近隣者の方々の参加が年々増え、認知症事業所への理解も広がってきている。</p> <p>(外部評価) 利用者は月1回開催される小学校主催の交流会に、地域の老人会や婦人会と一緒に参加しており、フォークダンスやレクリエーションなどを通して地域住民と交流をしている。校区の盆踊りに参加したり、婦人会員が事業所で踊りを披露してくれたりするなど、相互の交流関係が築かれている。管理者は事業所から地域に出向いていくことを心がけ実践している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症となっても、地域の中で当たり前暮らしすることの大切さ、周囲の人の理解や接し方の勉強会を行っている。又、短大生の実習や高校生の職場体験も定期的に受け入れ、地域における認知症ケアの推進を図っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2か月に1回苑便りを作成し、家族・利用者・民生委員・公民館長・行政（包括支援センター）などの参加の下、活動報告を行っている。その中で課題へのアドバイスや率直な意見を頂いたり、専門的な意見交換を行いながら管理者・主任を中心にサービス向上、改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、地域住民、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員等の参加を得て開催している。会議では事業所便りを見てもらいながら活動報告を行い、写真や利用者の言葉から日々の生活の様子が分かるように工夫している。認知症や感染症対策、健康管理方法などの勉強会と一緒に開催する工夫もしており、事業所の取組みを知ってもらうとともに地域に情報提供をしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 推進会議メンバーである行政担当者に協力を得、考え方や実態を知って頂いた上で課題を提案してもらったり共有している。又、自ら行政に出向いたり、担当者には具体的なニーズを伝え、認定更新の機会などで連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換、新しい情報を得ることができるよう関係を築いている。市内の地域密着型サービス事業所間の勉強会の開催を考えており、行政の協力が得られるよう検討しており、連携の大切さを認識している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人内の身体拘束防止委員会にて、定期的な勉強会を実施し、内容については全職員が共有できるよう職員会にて話し合い、拘束のないケアを目指し取り組んでいる。施錠については、防犯上18：30～7：30は行うが、他は解放し利用者に寄り添いながら自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 法人内に身体拘束防止委員会や虐待廃止委員会があり、事業所内で勉強会を開き、支援方法について職員間で話し合い、身体拘束をしないケアを共有して実践している。職員は、利用者の言動の背景を捉えられるよう気づきの意識を持って支援しており、話をじっくり聞くことや家族の協力を得て、その人らしい生活が送れるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内で虐待廃止委員会を定期的開催し、職員会や勉強会、日々の申し送りなどの中で、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行い、事業所内で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護、成年後見制度に関する研修会に参加し、都度勉強会を行っています。又、随時、関係機関にも協力いただき、安心して活用ができるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には、書類の説明、事業所の考え方や取り組み、退居までを含めた対応の可能な範囲についての説明を行っている。又、利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族等と対応方針の相談と理解、納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時やカンファレンス、3か月に1度の家族会、食事会などで利用者の生活状況の報告を行い、本人の希望、家族からの意見要望をお伺いしている。又、玄関に投票箱を設置したり、毎月の介護経過評価表に家族の意見要望記入欄を設け、意見を反映させ、日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に利用者と家族が参加しており、意見や要望を聞くように努めている。また、家族会の開催時や事業所の訪問時を利用して、家族から意見を聞くようにしており、出された意見をもとにして、サービスの質の向上に繋がるよう努めている。家族が事業所の行事に参加したり家族と一緒に外出することを大切にしており、家族も事業所が自宅のように感じられるよう職員は取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 合同ミーティング・勉強会・研修への複数参加など、日頃よりコミュニケーションを図るよう心掛け、信頼関係の構築に努めている。又、運営者には現場での報告を密に行い、職員の意見を反映させながら質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 日頃から職員同士の意見交換は活発に行われており、ユニット主任を通じて管理者や法人職員に意見を伝えることができる。法人の施設長は、運営推進会議に毎回参加し、事業所の様子や地域との繋がりを理解しており、環境整備や利用者の気持ちに立ち、サービス提供ができるように努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 皆で協力し合い、勤務シフトに希望休を取り入れ、楽しく就労できるよう工夫している。又、各職員の努力や成果について把握し、向上心を持ち働けるよう職能評価を行っている。又、資格取得に向けての支援も行い、その成果も表れている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修案内を事務所やホーム内に掲示し参加を促し、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた研修の機会を計画的に確保、職員の質の向上に向けた育成に取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の研修会は内容により参加。又、相互研修も毎年参加し、他事業所との意見交換を行い、日々のケアに活かしている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談にて生活状態の把握ができるよう、ご本人の不安や求められていることなどを把握し受け止め、安心して頂けるような関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの生活歴や、サービスを利用に至った経緯など、ゆっくりと傾聴し把握。今後、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の思いや状況等を都度確認し、今、必要であるサービス情報を迅速かつ的確に提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に過ごす中で、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら、お互い支え、支えられていることを理解し、協力しながら、ホームの理念である当たり前の暮らしが安心して送れるような雰囲気作りや声掛けを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 誕生日・そうめん流し・夏祭り・餅つき・家族会、食事会などの行事の際には、家族への参加を呼びかけ、面会時も利用しながら、利用者・家族・職員が三位一体となり、楽しみながら交流を深め合い、より良い関係作りができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今までに生きてこられた生活の中で、本人が支え、支えられてきた大切な人間関係を把握するよう努め、電話連絡や訪問で、馴染みの人や場所との関係継続ができるよう心掛けている。	
			(外部評価) ドライブ時に利用者の実家や行きつけのスーパーに出かけるなど、馴染みの場所に行けるよう支援している。また、家族と一緒にカラオケに行ったり、俳句の仲間の訪問があるなど、これまで大切にしてきた関係が継続できるように努めている。事業所だけでは利用者の馴染みの関係の継続には限りがあり、管理者は地域住民など様々な所に声かけをして、地域全体で支援できるような体制づくりができないか検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 時間帯により、心身状態の変化が見られる為、注意深く見守りながら、レクリエーション・軽作業を通じ、利用者同士の関係がうまくいくよう、職員が仲介役となりながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された後も、入院された利用者の面会を行ったり、ご家族の相談を受け、必要に応じた施設紹介等も行い、継続的な関わりができるよう心掛けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の利用者の言動、表情などからその心情を察し、傾聴することで真意を確認したり、意思疎通が困難であればご家族からも情報を得ている。毎月ケアプラン経過報告のコメントを頂き、3カ月に1回実施のカンファレンスでは、家族参加を促し希望実現となるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の思いや発言した言葉をそのまま介護記録に書くように心がけており、記録を読み直すことで利用者一人ひとりを深く把握するように努めている。調理やおぼん拭き、洗濯物を畳んだり、畑での野菜作りを手伝うなど、利用者が役割とやりがいを持って生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みがあり、使い慣れた私物を居室に置き、親しみのある環境づくりをしたり、個々の希望に応じ散歩、買い物などの個別対応に努めている。又、センター方式B3シート（私の暮らし方シート）を活用し、家族の協力を得ながら生活歴・馴染みの暮らし等を把握し、それらが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の体調変化の早期発見の為、毎日のバイタルチェックを実施し、食事量・排泄回数・睡眠時間などを個別チェック表に記載し活用している。又、個々の生活リズムを大切にしながら、できることやわかる力を、暮らしの中で発見できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人、家族、担当職員などの参加の下カンファレンスを実施。又、勉強会等を利用し、全員が見直しをする機会を設け意見を出し合っている。ケア内容は介護記録時いつも確認できるようファイルし、経過記録表は担当職員が記入、介護計画作成者が確認。又、コメント・サインを頂き、より適した計画作成に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの担当職員が、日々の観察や細やかな介護記録を記入するなど、情報を多く持てるよう努めている。利用者の情報や家族からの要望を取り入れカンファレンスを行い、利用者にとってより良い生活が送れるよう介護計画に反映している。計画の評価は1か月ごとに行い、評価を家族に確認してもらいコメントをもらっている。モニタリングは、3か月に1回の総合評価として行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケアプランに沿った個別チェック表を作成実施し、本人の言葉やエピソードなど、新たな気づきや工夫は介護記録に記載。申し送りや日常の業務の中で情報を共有している。又、それらを基に意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療連携体制を活かし、月2回の往診の協力を得たり、利用者の状況や緊急性に応じて受診や通院送迎などの対応を行っている。又、本人や家族の要望に応じて外泊や外出の支援も行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近隣の南光坊へのお参りや、小学校のたんぼぼタイム、地方祭、近所の喫茶店や買い物など体調の考慮をしながら外出し、馴染みの方との交流を楽しみにしている。又、家族の協力を得、行きつけの美容院へ出かけた時、ボランティアの訪問を設定し交流を図っている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力病院医師の月2回の往診の利用や、利用者個々 のかかりつけ医を持ち、ご家族様付添いにて受診され る。緊急時やご家族の都合で協力を得られない場合は 主に看護師が同行。家族同行時は介護要約書にお渡し し、適切な支援が得られるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。事業所には定期的に協力医と歯科医の往 診があり、健康管理している。病院受診時には、担当 職員が利用者の状況を介護記録要約書に記入して医師 に渡し、治療や薬に変更があれば医師からの返信がも らえるように依頼している。受診状況は医師、家族、 事業所が情報を共有できるよう情報伝達の仕組みを しっかりと確立している。特に薬が変更された場合 は、その後の利用者の状態把握に努め、連携しながら 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム内に看護師を配置し、常に利用者の健康管理を 行い、24時間体制で状況に応じた支援を行ってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護サマリーを提供し、医師・看護師との 情報交換を行い、回復状態を見ながら、退院となつた 時にスムーズに施設での生活に戻れるよう連携を図っ ている。又、ご家族とも情報交換をしながら速やかな 退院支援に結び付いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りについては、契約時、指針に沿って事業所が対 応しうる最大のケアについて説明し、理解・同意を得 ている。又、身体や精神面での状況の変化につい ては、家族会やカンファレンス時以外にも必要と思われ る時には随時話し合いを行っている。	
			(外部評価) 看取り、重度化に関する指針を作成しており、入居時 に事業所としてできないことを利用者や家 族に説明している。家族に利用者の状態の変化など報 告を継続して行い、理解を得ながら現状に適した医療 や施設を家族と一緒に探す支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応については、初期対応がスムーズに行えるよう、救急法やAEDの使い方の講習を受け、ミーティング時定期的に勉強会を行っている。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを作成し、常にすぐ見られるところに置いてある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者の歩行レベル、移動手段が一目でわかるよう業務日誌に記載し共有、消化器の位置や避難経路を全職員が日々確認している。また、法人での災害訓練時には地域の方にも呼びかけ参加して頂いている。  (外部評価) 避難訓練は法人全体で地域住民の協力を得て実施している。訓練後には参加者で課題などを話し合い、非常時に活かせるよう取り組んでいる。建物は耐震化されており、大規模災害時には地域の避難場所として利用してもらえるように運営推進会議を通して地域に案内している。また、1週間分の備蓄品を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の性格や生活歴を知り、人格を尊重し、プライバシーにも配慮しながら、一番心地よい呼び名や声掛けを心掛けている。又、職員の言動口調など、利用者の自尊心を傷つけないよう注意し合い、意識向上を図っている。  (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬って接することを心がけており、声かけや関わりに気をつけて支援している。コミュニケーション技術や接遇の内部研修を行い、職員の意識や技術の向上に努めるとともに、法人が費用負担し外部研修に参加しやすいようにしており、職員は積極的に研修に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 共に過ごしていく中で、利用者の表情を読み取り、外出場所の選択、購入物の選択決断、衣類の選択など、些細なことでも利用者自身が意思決定できるようゆったりと待ち、希望が叶うよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人が日々その人らしく暮らせるようその時々 の望みを大切にし、買い物や散歩など個々に合わせた 支援を行っている。又、軽作業や家事仕事などは自主 性も汲み取りながら感謝の意を伝え、無理のないよ う行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 日々、男性らしく、女性らしく身だしなみを整え、 個々に合わせたお洒落ができるようサポートしてい る。又、できることを大切にし、見守りながら馴染 みの美容室や訪問美容師によるお洒落を楽しまれて いる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何よりも楽しみである「食」に関して、料理盛り付 けにも積極的に参加していただき、彩りや香りなどの 工夫をし、作って、見て、食べて楽しめるよう様々 な取り組みを試みている。月2回は利用者の希望を 聞きながら献立をたてる自由食を取り入れ、より食 事が楽しめる工夫をしている。	
			(外部評価) 栄養士が献立表を作り、法人の厨房から食材が配 分され、利用者の好みや気候に合わせてユニット毎 に工夫して調理している。利用者は職員と食卓を 囲み、会話をしながら食事をしている。調査員訪 問時には、スイカを切ったりちらしずしを作ったり する利用者の姿が見られ、食事を楽しみにしなが ら手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の作成した献立表を基に利用者と相談し ながらその日のメニューを決定。個々の咀嚼や嚥 下状態に合った調理方法を行い、バランスの良い 食事を提供している。又、飲水摂取量・排泄を 個別にチェックし、体重増加や水分不足が起 こらないよう健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に 応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科受診者は医師よりアドバイスを受け、 毎食後、一人一人に合った口腔ケアを実施。 口腔ケアセットは夜勤帯で毎日消毒し、清 潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限りトイレでの排出ができるよう、個々の排泄パターンや兆候に合わせて声掛け誘導を行う支援をしている。なるべく布の下着を用い、必要であれば時間や量に合わせた排泄用品の使い分けを行い、排泄後は洗浄や清拭を実施。常に気持ちの良い状態で過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 排泄チェックを行い、利用者がトイレで排泄できるよう努めている。排泄後は微温湯や温かいタオルを使って、清拭を丁寧に行うよう取り組んでおり、皮膚の清潔保持と気持ちの良い排泄を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、ヨーグルトや牛乳などの乳製品や繊維質の食材を取り入れ、適度な運動や腹部マッサージを働きかけ、自然排便ができるよう取り組んでいる。又、食事摂取量・排尿・排便チェックを行い、必要であれば担当医に報告し個々にあった処方がなされている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や、個々の生活習慣に合わせた自由な入浴を心掛け、場合によっては夜間入浴も取り入れている。浴室内は安全第一に考え、明るく飾り付け、楽しくくつろげる場所になるよう工夫している。入浴後はドライヤーで足指間の乾燥を行い、白癬菌の予防や清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 利用者は基本的に2日に1回利用者は入浴することができ、希望に応じて毎日入浴することもできる工夫をしている。管理者は、認知症ケアとして睡眠の大切さを認識しており、夜間に足浴を行うなど、安眠、良眠できるよう支援している。浴室壁面には、飾りシールを貼り、楽しく会話の弾む空間となるように工夫している。入浴後の皮膚の乾燥を防ぐためにボディローションを塗っており、利用者一人ひとりが選んで買ったものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量を一人一人調節しながら休息も取り入れ生活のリズムを作っている。昼空間も利用し自ら横になったり、夕食後はテレビ鑑賞をしながら雑誌やお茶を楽しむなど、ゆったり過ごせ安眠に繋がる工夫を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬のセットは主に看護師が行い、個別ケースに収納管理している。又、服薬時は個々に合った服薬方法にて関わり、最後まで確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の経験や生活習慣を大切に、趣味や特技、又、家事仕事など当り前の作業などから、役割や楽しみごとを作り出し、生活に活気と潤いがある支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候と相談しながら、日々の利用者の状態や希望、季節などその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。特に、住み慣れた場所に行ったり記憶にある方の面会など、今望んでいることの実現を目指している。又、ご家族様面会時には、同行外出の協力も得、穏やかな時間が過ごせられるよう援助している。 (外部評価) 季節に応じて芋炊きを食べに行ったり、バラ公園に行ったりするなど、外出することで季節が感じられるよう支援している。職員は事前に外出先が車いすでの利用に障がないか確認するなど、外出支援に力を入れており、利用者の希望に沿えるよう取り組んでいる。外出時には利用者の写真を撮り、写真を見ることを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いはホームの金庫で保管し、外出時には個々の金銭管理能力に合わせた支援を行い、買い物を楽しんで頂いている。週1回の訪問パン販売を楽しみにされ好きなものを選ぶ楽しみを持って頂いている。又、小遣い帳で管理し、ご家族来苑時に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は誰でも希望時に掛けられるようにしている。中には自分の言葉で手紙やハガキを書き送ることを望まれる方がおられ、希望に応じ投函介助等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロアや玄関には、季節の花や壁面飾りで季節感を取り入れ、利用者手作りの座布団を敷いたソファやベンチで、ゆったり過ごせるよう工夫している。共有空間がより居心地良く、安心できる場所になるよう、ゆったりとした音楽を流したり、テレビで好きな番組を観たりと、何気ない当たり前の生活を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 室内の花や飾りつけにはこだわりがあり、季節感を感じることができるような空間となっている。食堂と居間には外からの明るい光が差し込み、フロアには畳を敷いたスペースがあり、利用者は思い思いの場所に自由に座り込んだり横になったりすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには畳の空間を作り、寝転がって休んだり、数人で談笑や協力して作業ができる場所を確保し、思い思い好きなことができるよう工夫している。少人数で利用者同士がくつろいだり、一人ゆったり過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みのある、使い慣れた用品に囲まれ、心地よく暮らして頂けるよう支援している。また、写真やお位牌など持ち込み、毎朝お供えをし手を合わせるといふ、自宅と変わらぬ生活を継続している。</p> <p>(外部評価) 居室には利用者の使い慣れた物や大切な物を自由に持ち込むことができ、落ち着いた生活を送ることができる。身体状況に合わせてベッドや布団も持参しており、介護用ベッドを使用している利用者もいる。日中、居間で過ごす利用者の居室は窓を開けて風を通すようにし、居室で休む時にはエアコンをかけて温度調節をして、過ごしやすいよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ、居室等には確認できるよう、身体レベルに合った高さなどに考慮しながら目印をつけ、自分の「わかること」の力を活かし動けるような設えを工夫している。又、安全な動線確保や環境作りを行いつつ、利用者の自立を意識した環境作りを行っている。</p>	